

2207A

研究テーマ名	カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施
背景と目的	<p>アジアの多くの国で経済成長を実現するなかで、急速なモータリゼーションが進んでいる。それは、途上国であるカンボジアでも例外ではない。しかし、その弊害として、様々な交通課題が起こっている。とくにカンボジアでは、幹線道路（国道 5 号線）の整備・高規格化に伴い、周辺地域での交通事故が増加している。この対策の一つとしてカンボジア政府のアクションプランに交通安全教育や行動変容プログラムが位置づけられ、日本の国際協力機構（JICA）による交通安全技術協力プロジェクトも立ち上げられた。この行動変容プログラムの開発と実施においては、クロスセクターの連携が求められ、特に現地において連携を主導できるリーダーシップスキルの高い人材・組織の協力が必須である</p> <p>そこで、IATSS フォーラム・カンボジア同窓会（CIAA）ならびに JICA と連携しながら、IATSS で行動変容プログラム・チームを立ち上げ、プログラムの開発と、現地パイロットエリア（工場、学校）でのコミュニティベースのワークショップ実施等を通じ、交通事故減少に寄与することを、本研究プロジェクトの目的とする。</p>
期待される成果	<p>本研究の具体的な成果としては、交通安全に関する行動変容プログラムの開発と、それを社会実装していくことで、中期的な視点から交通事故者数を減らしていくことである。この行動変容プログラムの開発にあたっては、CIAA、カンボジア政府（公共事業・運輸省、教育・青年・スポーツ省）、JICA と連携することによって、カンボジアの実状に即したプログラムとなることが見込まれる。また、プログラム開発後は、CIAA ならびに JICA と協働して現地のコミュニティでワークショップやクロスセクター対話を開催することによって、実際に人々の交通安全意識が向上し、行動変容を促し、交通事故数の減少に寄与することが期待されている。</p> <p>こうした交通安全に関する行動変容プログラムの開発は、東南アジア・南アジア地域では未だ十分に行われておらず、本研究は先駆的な取り組みとなる。そこで、本研究を実施後は、他国の IATSS フォーラム同窓会とも連携して、東南アジア・南アジアの各地でも、こうしたプログラムの開発ならびに社会実装を行っていくことが見込まれる。</p> <p>さらに、IATSS として近年関係を深めている JICA との連携を具体化する取組としても、本研究を位置づけることができる。この連携を契機に、JICA、さらには他国政府や国際機関との国際連携を活発化させていくことが期待できる。</p>